

令和6年度の橋梁点検において、道路橋記録様式を精査した際に確認された疑問点および問題点を踏まえ、様式作成時の参考となることを期待し、注意点を以下のとおり整理した。

道路橋記録様式作成上の注意点(全般)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
全般	フェールセーフの範囲	・フェールセーフで扱う範囲が曖昧。	・道路橋記録様式の記載が統一されない。	・フェールセーフは、落橋防止構造(チェーンタイプ、PCケーブルタイプ、RC壁タイプ、アンカーバータイプ)、縁端拡幅(RC、鋼ブラケット)とする。 ・フェールセーフに桁かかり長は含まない。 ・フェールセーフにダンパーは含まない。
全般	フェールセーフの範囲	・縁端拡幅を、「その他(フェールセーフ)」として扱っていない。	・道路橋記録様式の記載が統一されない。	・縁端拡幅構造はフェールセーフとして扱い、「その他(フェールセーフ)」を記載する必要がある。

道路橋記録様式作成上の注意点(様式1)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
様式1	技術的な評価結果	・写真にフェールセーフ(落橋防止構造)は見られないが、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」にその他(フェールセーフ)の記載がある。	・フェールセーフの写真がないため、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」が正しいかが核にできない。	・フェールセーフがない場合は、フェールセーフに関する「技術的な評価結果」は「-」とする。
様式1	技術的な評価結果	「技術的な評価結果」の「その他(フェールセーフ)」は全て「-」であるが、「特定事象の有無」の「その他(フェールセーフ)」は「無」となっている。	「技術的な評価結果」と「特定事象の有無」に不整合が生じている。	「技術的な評価結果」の「その他(フェールセーフ)」は全て「-」の場合、「特定事象の有無」の「その他(フェールセーフ)」も「-」とする。
様式1	技術的な評価結果	・「技術的な評価結果」の「その他(フェールセーフ)」は全て「-」となっており、落橋防止構造は設置されていないが、桁がかり長は確保されていても、「技術的な評価結果」は「地震」が「B判定」とされている。	落橋防止構造がないだけで、「技術的な評価結果」の地震を「B判定」としており、適切な判断ではない。	・落橋防止構造が設置されていないだけで、「技術的な評価結果」の地震を「B判定」としない。
様式1	技術的な評価結果	・溝橋の「技術的な評価結果」の上下接続部は「-」として、判定が「-」とされていない。	・溝橋の上下接続部はハンチとする。	・溝橋の「技術的な評価結果」の上下接続部はハンチとし、判定する。
様式1	技術的な評価結果	・「技術的な評価結果」で支承が見られない場合、上下接続部は「-」としている。	・道路橋記録様式の記載の統一。	・「技術的な評価結果」で支承が見られない場合、上下接続部は「-」とする。「健全性の診断に関する所見」に支承がないことを記載する。
様式1	技術的な評価結果	・支承、伸縮装置が確認できないため、「技術的な評価結果」において、上下接続部、その他(伸縮装置)は「-」としている。上記を「健全性の診断に関する所見」に記載する必要はないか。	・道路橋記録様式の記載の統一。	・「技術的な評価結果」で支承が見られない場合、支承、伸縮装置は「-」とする。「健全性の診断に関する所見」に伸縮装置がないことを記載する。
様式1	技術的な評価結果	・落橋防止構造は見られないが、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」にその他(フェールセーフ)の記載がある。	・道路橋記録様式の不整合。	・落橋防止構造はない場合、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」は「-」とする。「特定事象の有無」も同様とする。
様式1	技術的な評価結果	・「技術的な評価結果」で上下部接続部はA判定であるが、「特定事象の有無」で支承が「-」であるため不整合がある。	・道路橋記録様式の不整合。	・「技術的な評価結果」で上下部接続部にA判定等がある場合、「特定事象の有無」で支承が「無」または「有」とする。
様式1	技術的な評価結果	・「技術的な評価結果」でボックスカルバート(溝橋)にもかかわらず、その他(フェールセーフ)、その他(伸縮装置)の記載がある。	・道路橋記録様式の不整合。	・「技術的な評価結果」でボックスカルバート(溝橋)の場合、その他(フェールセーフ)、その他(伸縮装置)は、「-」とする。「特定事象の有無」も同様とする。
様式1	技術的な評価結果	・高欄は簡易なもので機能を満足しない場合、「橋梁単位の健全性」はⅡ判定とされている。「措置の必要性」もⅠ判定としている。	・健全性評価の曖昧。	・高欄が簡易なものの場合、管理する総合支庁の補修計画も踏まえて判断する。
様式1	技術的な評価結果	・落橋防止構造は見られないが、「技術的な評価結果」にその他(フェールセーフ)の記載がある。	・道路橋記録様式の不整合。	・「技術的な評価結果」で落橋防止構造がない場合、「その他(フェールセーフ)」は「-」とする。「特定事象の有無」も同様とする。
様式1	技術的な評価結果	・主桁、横桁、床版等上部構造全体に剥離・鉄筋露出が生じているため、「技術的な評価結果」の上部構造をB判定としている。	・健全性評価が曖昧。	・主桁、横桁、床版等上部構造全体の剥離・鉄筋露出をB判定とした理由を、「所見」に詳しく記述する。
様式1	技術的な評価結果	・ボックス断面の連結材の破断が想定されるため、「技術的な評価結果」をB判定とされている。本橋はボックス(溝橋)のため、横断面で成り立つと考えられ、そのため、「補修要否の判定」では上部構造をⅡ判定としている。	・健全性評価が曖昧。	・ボックス(溝橋)は横断面で成り立つため、「技術的な評価結果」はA判定、「補修要否の判定」はⅡ判定と考える。
様式1	技術的な評価結果	・主桁、横桁、床版等上部構造全体に剥離・鉄筋露出が生じており、塩害・中性化の影響も踏まえてB判定としている。	・健全性評価が曖昧。	・上部構造の状況はB判定で妥当と考えるが、主桁、横桁、床版等上部構造全体の剥離・鉄筋露出をB判定とした理由を、「所見」に詳しく記述する。

道路橋記録様式作成上の注意点(様式2)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
様式2	写真	・溝橋で、様式2に写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「その他(フェールセーフ)」「その他(伸縮装置)」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・様式2に[上部構造]の写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「その他(フェールセーフ)」「その他(伸縮装置)」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・様式2に[下部構造]の写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「その他(フェールセーフ)」「その他(伸縮装置)」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・様式2に[上下部接続部]の写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「その他(フェールセーフ)」「その他(伸縮装置)」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・様式2に「その他(フェールセーフ)」の写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「その他(フェールセーフ)」「その他(伸縮装置)」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・様式2に「その他(伸縮装置)」の写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「その他(フェールセーフ)」「その他(伸縮装置)」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・「措置の必要性」で高欄地覆(もしくは、排水管等のその他の部材)がⅡ判定やⅢ判定となっているが、様式2に損傷写真が記載されていない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には部材毎の補修要否の判定のうち最も厳し判定(Ⅱ判定又はⅢ判定)の損傷写真を必ず添付する。ただし、Ⅰ判定の場合は写真は添付しなくてよい。
様式2	写真	・写真にフェールセーフ(落橋防止構造)は見られないが、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」にその他(フェールセーフ)の記載がある。	・フェールセーフの写真がないため、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」が正しいかが確認できない。	・様式2には「上部構造」「下部構造」「上下接続部」「フェールセーフ」の写真は一式を必ず記載する。
様式2	写真	・溝橋で、様式2に上下接続部の写真がない。	・溝橋の上下接続部は、頂板と側壁のハンチとする。	・溝橋では、様式2に上下接続部の写真として頂板と側壁のハンチを載せる。
様式2	写真	・「措置の必要性」にて、横桁をⅡ判定としているが、様式2に横桁の写真がない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・「措置の必要性」で横桁をⅡ判定とする場合、様式2に横桁の写真を載せる。
様式2	写真	・様式2の下部構造の写真は全景で損傷が見られない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2の下部構造の写真は損傷が確認できる写真を載せる。
様式2	写真	・「措置の必要性」で下部工がⅡ判定となっている。様式2に下部構造の写真は掲載されているが損傷写真として明確ではない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・「措置の必要性」で下部工がⅡ判定となっている。下部工の写真は掲載されているが損傷写真として明確ではないため、様式2に明らかな損傷写真を記載するのが望ましい。
様式2	写真	・様式2の床版の漏水・遊離石灰、下部工の漏水の損傷写真が「その他」となっている。	・様式2の記載内容に不整合がある。	・様式2の写真では、部材に応じた適切な構成要素を選定する。
様式2	写真	・様式2は上部構造(主桁)の写真のみである。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2は上部構造(主桁)の写真のみのため、に床版間詰、下部構造、上部工接続部の写真添付が必要と判断される。
様式2	写真	・様式2に損傷写真が全くない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2に最低でも上部構造、下部構造、上下接続部の写真添付が必要と判断される。なお、溝橋であることを「健全性の診断の区分の前提」に明記する。
様式2	写真	・「措置の必要性」で主桁、床版、下部工がⅡ判定となっているが、様式2の写真の損傷が明確でない。	・道路橋記録様式だけで、主要な損傷が把握できない。様式2の写真で損傷を確認できない。	・様式2には、「部材群」毎に、1枚以上は損傷が確認できる写真を添付する。
様式2	備考	・様式2の「その他(伸縮装置)」の備考に「異常なし」と記載されているが、損傷写真には漏水が見られる等、備考のコメントと写真に不整合がある。	・添付された写真が正しいかわからず、状況を把握できない。	・様式2の写真と備考のコメントは整合させる。

道路橋記録様式作成上の注意点(様式3)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
様式3	特定事象の有無	・様式3の「特定事象の有無」で、「その他(伸縮装置)」の「その他」が「有」となっているが、記載がなくその内容が不明である。	・「特定事象」が何かわからない。	・「特定事象の有無」で、その他を「有」とする場合は、その内容を「健全性の診断の区分の前提」に記載する。
様式3	特定事象の有無	・様式3の「特定事象の有無」の「上部構造」の「その他」が「有」となっているが、記載がなく、内容が不明である。	・「特定事象」が何かわからない。	・「特定事象の有無」で、その他を「有」とする場合は、その内容を「健全性の診断の区分の前提」に記載する。橋面防水工の問題と思われるため、内容を記載すること。
様式3	特定事象の有無	・写真にフェールセーフ(落橋防止構造)は見られないが、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」にその他(フェールセーフ)の記載がある。	・フェールセーフの写真がないため、「技術的な評価結果」「特定事象の有無」が正しいかが核にできない。	・フェールセーフがない場合は、フェールセーフに関する`特定事象の有無`は「-」とする。
様式3	特定事象の有無	・高欄・地覆がない橋梁があるが、「特定事象の有無」に記載がない	・高欄・地覆が補修計画の対象とならない。	・高欄・地覆がない場合、「措置の必要性」「橋梁単位の健全性」はⅡ判定もしくはⅢa判定とする。
様式3	特定事象の有無	・高欄・地覆が単管等で補修されているが、「特定事象の有無」に記載がない	・高欄・地覆が補修計画の対象とならない。	・高欄・地覆が簡易補修されている場合、「措置の必要性」「橋梁単位の健全性」はⅠ判定ではなくⅡ判定以上とする。
様式3	特定事象の有無	・「特定事象の有無」のうち、上部構造の疲労は「-」が記載されている。	・上部構造では、疲労は「有無」で評価すべきである。	・「特定事象の有無」のうち、上部構造の疲労が考えられなければ、上部構造の疲労は「無」を記載する。
様式3	特定事象の有無	・支承に乾燥収縮と推定されるひび割れがあっても、「特定事象の有無」の「上下接続部」の「その他」は「無」となっている。	・支承が補修計画の対象とならない。	・支承に乾燥収縮と推定されるひび割れがあっても、「特定事象の有無」の「上下接続部」の「その他」は「有」とし、「健全性の診断の区分の前提」にコメントを記載する。
様式3	特定事象の有無	・床板と舗装のひびわれの原因が不明とされているが、「特定事象の有無」に記載がない。	・診断結果が曖昧である。	・床板と舗装のひびわれの原因が不明であるならば、「特定事象の有無」の「上部構造」の「その他」を「有」とするのがよい。また、「健全性の診断に関する所見」に、床板と舗装のひびわれの原因を調べるための詳細調査を記載する。
様式3	特定事象の有無	・「特定事象の有無」において「上部構造」の「その他」で中性化を上げている。これはかぶりが薄いため中性化の影響があるとの判断であり、中性化深さを確認したわけではない。	・中性化の妥当性が判断できない。	・所見に、中性化と判断した理由を「(2)特定事象との関連から特筆すべき事項」に記載する。
様式3	特定事象の有無	・「特定事象の有無」で、上下接続部のその他が「有」となっているが、その内容の記載がない。	・「特定事象」が何かわからない。	・「特定事象の有無」で、その他を「有」とする場合は、その内容を「健全性の診断の区分の前提」に記載する。
様式3	特定事象の有無	・「特定事象の有無」において、上部工の「疲労」が「有」となっているかく、損傷は疲労が原因ではなく、シース内への漏水と考えらる。	・「特定事象の有無」の記載と、損傷要因が一致していない。	・上部構造の「特定事象の有無」の「疲労」は「無」とし「その他」を「有」とする。
様式3	特定事象の有無	・「技術的な評価結果」でその他(フェールセーフ)は「-」であるが、「特定事象の有無」でその他が「有」となっている。	・道路橋記録様式の不整合。「特定事象」が何かわからない。	・「技術的な評価結果」と「特定事象の有無」は整合させる。「特定事象の有無」で、その他を「有」とする場合は、その内容を「健全性の診断の区分の前提」に記載する。
様式3	特定事象の有無	・「健全性の診断に関する所見」で下部構造の損傷原因を凍害としているため、「特定事象の有無」のその他を「有」とする。	・「特定事象」を明確にする。	・「特定事象の有無」で、その他を「有」とする場合は、その内容を「健全性の診断の区分の前提」に記載する。山形県の診断書では「その他(凍害)」を選定する。
様式3	特定事象の有無	・「特定事象の有無」において塩害を「有」としている。しかし、塩害に起因する損傷はなく、矛盾している。	・「特定事象の有無」の記載と、損傷要因が一致していない。	・「特定事象の有無」において塩害を「有」とする場合は、所見に「塩害」と判断した理由を詳しく記載する。
様式3	特定事象の有無	・「特定事象の有無」で、「その他(伸縮装置)」のその他が「無」となっているが、伸縮装置から漏水がある。	・「特定事象の有無」の記載と、損傷写真が一致していない。	・伸縮装置から漏水がある長谷愛、「特定事象の有無」の「その他(伸縮装置)」の「その他」は「有」とする。
様式3	健全性の診断の区分の前提	・フェールセーフの写真がなく、所見などに記載もないため、フェールセーフの有無がわからない。	・フェールセーフの有無がわからない。	様式3の「健全性の診断の区分の前提」に、フェールセーフがないことを記載する。
様式3	健全性の診断の区分の前提	・伸縮装置の写真がなく、所見などに記載もないため、伸縮装置の有無がわからない。	・伸縮装置の有無がわからない。	様式3の「健全性の診断の区分の前提」に、伸縮装置がないことを記載する。

道路橋記録様式作成上の注意点(様式3)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
様式3	健全性の診断の区分の前提	・「技術的な評価結果」のその他(伸縮装置)は「-」であるが、「特定事象の有無」は「無」と記載されており、不整合がある。	・伸縮装置の有無がわからない。	・伸縮装置がない場合、「特定事象の有無」は「-」とする。 ・様式3の「健全性の診断の区分の前提」に、伸縮装置がないことを記載する。
様式3	健全性の診断の区分の前提	・「特定事象の有無」で、「下部構造」の「その他」が「有」となっているが、その内容の記載がない。	・「特定事象」が何かわからない。	・「特定事象の有無」で、「その他」を「有」とする場合は、その内容を「健全性の診断の区分の前提」に記載する。
様式3	健全性の診断の区分の前提	・溝橋の場合、「その他(フェールセーフ)」、「その他(伸縮装置)」はないと考えるが、様式では明確にされてない。	・「その他(フェールセーフ)」、「その他(伸縮装置)」の有無がわからない。	・様式3の「健全性の診断の区分の前提」に、「その他(フェールセーフ)」、「その他(伸縮装置)」は「溝橋のためない」と記載する。
様式3	健全性の診断の区分の前提	溝橋は溝橋と明記されていない。	・なぜ、フェールセーフがない、斟酌装置がない、理由がすぐにわからない。	・様式3の「健全性の診断の区分の前提」に、「その他(フェールセーフ)」、「その他(伸縮装置)」は「溝橋のためない」と記載する。
様式3	所見	・溝橋の場合、「その他(フェールセーフ)」、「その他(伸縮装置)」はない。	・フェールセーフ、伸縮装置の有無がわからない。	様式3の「健全性の診断の区分の前提」に、本橋は溝橋で、「その他(フェールセーフ)」、「その他(伸縮装置)」はないと記載する必要がある。
様式3	所見	・床版橋の上部構造を床版として取り扱っている。	・山形県点検要領との不整合が生じる。	・本橋は床版橋であり、次回点検以降は床版ではなく主桁扱いとする。
様式3	所見	・「健全性の診断に関する所見」に、スラブドレーンの導水パイプ未設置が記載されていない。	・水がかりに対する記載内容が府不明。	・「健全性の診断に関する所見」に、スラブドレーンに導水パイプが設置されていないことによる影響があれば、その影響について記載する。
様式3	所見	・「健全性の診断に関する所見」に、主桁の疲労(有)の理由が記載されていない。	・疲労と診断した利用が不明である。	・「健全性の診断に関する所見」に、主桁の疲労(有)の理由を記載する。
様式3	所見	・その他(排水等)の内容が記載されていない。	・その他(排水等)の内容が不明である。	・その他(排水等)は袖擁壁の滞水であり、「健全性の診断に対する所見」で明確にするのが望ましい。
様式3	所見	・「健全性の診断に関する所見」は、(1)～(4)の項目ごとに記載されていない。	・所見のフォーマットに従っていない。	・「健全性の診断に関する所見」は、(1)～(4)の項目ごとに記載すること。
様式3	所見	・袖擁壁に「変形・欠損」がみられる。「措置の必要性」のその他(舗装等)はⅡ判定となっているが、様式2に袖擁壁の損傷写真がない。また、「健全性の診断に関する所見」に袖擁壁の損傷について記載がない。	・「道路橋記録様式」「診断書」「点検結果」を見ないと損傷がよくわからない。	様式2に袖擁壁の損傷写真を記載する。「健全性の診断に関する所見」に袖擁壁の損傷について原因を含め記載する。

道路橋記録様式作成上の注意点(一覧表)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で伸縮装置はⅠ判定となっているが、下部構造に漏水・滯水が見られ、不整合がある。	・道路橋記録様式の記載が正しいかわからず、状況を把握できない。	・伸縮装置のある下部構造に漏水が見られる場合、伸縮装置はⅡ判定以上とする。
一覧表	措置の必要性	・「技術的な評価結果」で下部工はB判定であるが、「措置の必要性」ではⅡ判定であるため、不整合がある。	・道路橋記録様式の記載が正しいかわからず、状況を把握できない。	・「技術的な評価結果」がB判定の場合、「措置の必要性」ではⅢ判定とする。
一覧表	措置の必要性	・「技術的な評価結果」と、「措置の必要性」で不整合がある。	・「技術的な評価結果」と、「措置の必要性」のどちらが正しいかわからない。	・「技術的な評価結果」と、「措置の必要性」は整合させる。
一覧表	措置の必要性	・地覆に凍害と推定される「剥離・鉄筋露出」が広範囲にみられる。このため、「措置の必要性」の地覆・高欄はⅠ判定→Ⅱ判定と考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・床板に「漏水・遊離石灰」がみられる。このため、防水工が劣化していると考えられ、「措置の必要性」の床板はⅠ判定→Ⅱ判定と考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・舗装に広範囲に「舗装の異常(ひびわれ)」がみられる。このため、「措置の必要性」の舗装はⅠ判定→Ⅱ判定と考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・伸縮装置の後打ちコンクリートに、広範囲の剥離がみられる。このため、「措置の必要性」の伸縮装置はⅠ判定→Ⅱ判定と考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」において、伸縮装置がⅠ判定とされているが、橋台に漏水や遊離石灰がかかっているため、Ⅰ判定→Ⅱ判定も考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」に床版がⅠ判定であるが、床板間詰には広範囲の遊離石灰が見られⅠ判定→Ⅱ判定も考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で床板はⅠ判定だが、ひびわれや漏水・遊離石灰が広範囲に見られⅠ判定→Ⅱ判定も考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で舗装はⅠ判定だが、ひびわれが広範囲に見られⅠ判定→Ⅱ判定も考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」にて支承がⅡ判定とされているが、補修は困難なため、Ⅱ判定→Ⅰ判定とも考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・排水柵の大部分に「土砂つまり」がみられ、排水柵蓋の一部変形・欠損が見られる。このため、「措置の必要性」のその他(排水)はⅠ判定→Ⅱ判定と考えられる。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で高欄・地覆)は凍害と推定される剥離やひびわれが見られるためⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・様式2に伸縮装置からの漏水の写真が記載されている。「措置の必要性」の伸縮装置はⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・所見に地覆のうき、剥離への対策が示されているため、「措置の必要性」はⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。また、様式2に損傷写真も望ましい。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・橋面に50mm以上の路面の凹凸が複数箇所確認されている。「措置の必要性」で「その他(舗装等)」はⅠ判定→Ⅱ判定でもよいと推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・伸縮装置に変色と漏水が確認されている。「措置の必要性」で「その他(伸縮装置)」はⅠ判定→Ⅱ判定でもよいと推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。

道路橋記録様式作成上の注意点(一覧表)

		道路橋記録様式に見られた記載内容	左記から生じる問題点	道路橋記録様式等作成上の注意点
一覧表	措置の必要性	・舗装の異常が確認され補修が必要と評価している。「措置の必要性」で「その他(舗装)」はⅠ判定→Ⅱ判定でもよいと推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・様式2の伸縮装置からの漏水により上部構造に府祝が生じている。「措置の必要性」で伸縮装置はⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で伸縮装置はⅠ判定だが、漏水と下部工への影響が見られⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で床版はⅠ判定だが、床版に広範囲の遊離石灰が見られⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・橋台に漏水が見られるため、伸縮装置のⅠ判定は再検討する必要がある。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で下部工はⅠ判定だが、胸壁に損傷が見られⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・下部構造に漏水が見られ、伸縮装置に排水不良も見られるためⅠ判定→Ⅱ判定が推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・「措置の必要性」で床版がⅠ判定となっているが、漏水・遊離石灰が広範囲に見られるため、Ⅰ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・補修個所に再劣化である遊離石灰を伴うひびわれが見られることから、「措置の必要性」の上部構造・下部構造はⅠ判定→Ⅱ判定と考える。橋単位の健全性もⅠ判定→Ⅱ判定と考える。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・高欄はないため、「措置の必要性」「橋梁単位の健全性」はⅠ判定→ⅡもしくはⅢa判定と考える。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・本橋は床版のひびわれ、遊離石灰が著しく2021年に防水工を施工したためⅠ判定としたが、経過観察とすること。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・床板下面の漏水・遊離石灰は広範囲だが、進行がないためⅠ判定としている。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・支承の機能障害が複数確認されているため、支承はⅠ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・主桁は剥離・鉄筋露出が散見されるため、主桁Ⅰ判定→Ⅱ判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・伸縮装置から漏水は生じているが、他部材の損傷は進んでいないためⅠ判定としている。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・主桁には腐食による著しい減肉が見られ、補修が必要と判断されるため、「措置の必要性」の主桁はⅡ判定→Ⅲb判定と推定される。「橋梁単位の健全度」もⅡ判定→Ⅲb判定と推定される。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。
一覧表	措置の必要性	・伸縮装置から漏水しているが、損傷の原因となっていないためⅠ判定としている。	・判定の整合性、統一。	・判定見の直しが考えられる。